

# 仙台市青葉区宮城西地区民生委員児童委員協議会

(平成 27 年 9 月)

## 1. 宮城西地区について

当宮城西地区は、旧宮城町の芋沢、大倉、作並、新川、上愛子の一部地域という広大な地域を担当しており、そのなかには、みやぎ台、向田、赤坂、高野原などの新興住宅地が含まれています。約 6,500 世帯を民生委員 24 名、主任児童委員 2 名の計 26 名の委員で受け持ち、活動しています。

## 2. 被災直後の活動状況

大震災発生直後から通信手段を失ったため、それぞれの委員は、徒歩や自転車、車を使い、道路状況の悪いなか、それでも一両日中には担当区域内の高齢者世帯やひとり暮らし世帯の安否確認を行ないました。

そして、安否確認のなかで知り得た情報をもとに、隣近所や地域の福祉委員、町内会長との連携を頼りに、自らもできる限りの支援活動を行ないました。

指定避難所が被災により使用不能となり、町内の集会所を急遽避難所としたために、開設から運営までも手がけた民生委員もいました。

発災直後から停電となっていた避難所においては、以前から地区社協の支援で用意されていた発電機が大変役立ったとの報告もありました。また、地区社協が行なってきた家具の転倒防止活動のおかげもあってか、家具の下敷きになるような被災者がほとんどなかったことは、日頃の活動の成果であると思います。

ある避難所では、発災直後には 90 名程度の避難者がありましたが、4 日後に電気が復旧すると、ひとり暮らし高齢者を中心とした 30 名程度に減少、さらに 8 日後に水道、電話が復旧すると、避難所に残ったのは危険家屋の判定を受けた 5 名程になりました。そして 14 日目には、それぞれに知人宅や賃貸住宅、また二次避難所に移ることで避難所を無事閉鎖することができました。

なかには、あまりに頼られすぎて、支援活動の打ち切りのタイミングの見極めに苦悩した民生委員もあったようです。

広い地域に点在するひとり暮らしの人や高齢者世帯を見守り、支援するために、ガソリンの枯渇するなか、水や食料まで分け合って、懸命に活動した民生委員がいたことを申し添えます。

## 3. 今後の防災活動について

この未曾有の震災から学んだことは、常日頃の近所付き合いや地域との連携がいかに大切であるかということであったと思います。今まで以上に地域の実情の把握と、地域住民との情報交換や意思疎通を心がけて活動していきたいと考えています。